

「与論小学校の与論の十五夜踊伝承活動の取組」

1 学校名

与論町立与論小学校

2 学年・人数

4年生（男女）から5・6年生男子（計39人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年9月 与論小学校（教室・運動場）

(2) 発表の日時・場所

令和5年10月1日 与論小学校運動会（4～6年男子）

令和6年1月30日 ヨロン海洋教育フェア（4年）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

与論の十五夜踊（よろんのじゅうごやおどり）

(2) 由来

1561（永禄4年）に、当時の与論城主が島内・琉球・大和の芸能を学ばせ、当時の島の娯楽としたもの。旧暦3月・8月・10月の十五夜に行われる。

(3) 構成等

初めに、二番組・一番組合同で雨乞いの踊りを奉納する。その後、二番組一番組の順に踊りを奉納し、最後に六十節・沖泊まりを奉納する。旧暦8月の十五夜では獅子舞と綱引きも行う。

5 保存会や地域との連携の具体

与論の十五夜踊は本来世襲制で行われていたが、少子化の影響もあり、現在はその限りではなく、教育委員会や町と協力しながら伝承・保存に努めている。その事業の一環として、現在は与論小学校の児童に、二番組・一番組双方の踊りを伝承する活動を行い、後継者育成に努めている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

4～6年男子は、令和4年度より教育課程特例校として特設した海洋教育科「ゆんぬ学」の時間を使い、与論十五夜踊保存会の踊り子に直々に指導を受けている。学校の運動会で発表することで、地域の方々に披露する機会を設けている。

また、4年生は海洋教育科「ゆんぬ学」の時間に、与論の十五夜踊についての調べ学習を加え、伝承していく意味や必要性を探究している。そして、その成果をヨロン海洋教育フェアで、他校の児童・生徒及び町民に発表する機会を設けている。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



【与論の十五夜踊りについての学習】



【十五夜踊保存会の方々との練習】



【運動会での披露】



【ヨロン海洋教育フェアでの発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童の感想】

- ・ 十五夜踊りが450年以上前から踊られていることを初めて知りました。踊りも琉球風の踊りと、大和風の踊りの両方が踊られているところが、他地区にはない与論の十五夜踊りの特別なところだと感じました。
- ・ 今年は4年生なので初めて「与論の十五夜踊」が踊ることができます。練習が始まると、「与論十五夜踊保存会」のみなさんが与論小学校に来てくれました。ぼくは少し緊張したけれど、とても優しく教えてくださったので、どんどん覚えることができました。
- ・ 運動会で「与論の十五夜踊」を一生懸命踊りました。ドキドキしたけれど、間違わずに踊れました。終わったあと、見ていた人たちから拍手をもらってとてもうれしかったです。

【十五夜踊保存会】

- ・ 与論島の伝統の一つとして「与論十五夜踊」を受け継いでいるが、年々後継者が減ってきており、新規会員の加入や育成が課題となっている。また、昔は演目の大部分を踊ることができていたが、450年以上前から現代まで受け継がれてきている中で、演目によっては消滅の危機にあるものもある。子供たちには、国の重要無形民俗文化財である十五夜踊を学ぶことで、地域への誇りや郷土愛をもって、未来へつなげてほしい。